

Alfa Romeo 156 History

アルファ・ロメオ156ヒストリー



1998年度の欧州カー・オブ・ザ・イヤーに輝いたアルファ156。日本市場でもアルファ・ブランドの認知度を大幅に高めるヒットモデルとなった。ここではその変遷を辿り、ラインナップ等について紹介していくことにしよう。

1998年5月

2.0ℓ 4気筒ツインスパークエンジン搭載の“156 2.0ツインスパーク”と、2.5ℓ V6エンジンが与えられた“156 2.5 V6 24V”から導入が始まる。いずれも右ハンドル仕様で、ツインスパークには5段MT、V6には6段MTが組み合わせられる。

1999年2月

ステアリングホイール上のスイッチ、もしくはジョイスティックによってシフト操作が可能な“156 2.0ツインスパーク セレスピード”と、マニュアルモード付電子制御4段ATが与えられた“156 2.5 V6 24V Qシステム”の2ペダルモデルが追加される。

1999年6月

“156 2.0ツインスパーク セレスピード”と“156 2.5 V6 24V Qシステム”に左ハンドル仕様(オリジナルサスペンション、ベルベット地シート、ホワイトメーターなどを持つ)を追加。



2000年9月

156セダンをベースに仕立てられたステーションワゴンモデル、スポーツワゴンの導入がス

タート。ラインナップは“スポーツワゴン2.0ツインスパーク セレスピード”と“スポーツワゴン 2.5 V6 24V Qシステム”の2種で、リアにはセルフレベルリング式の hidroニューマチックダンパーを採用する。



2001年7月

右ハンドル仕様の“156 2.0 ツインスパーク セレスピード”をベースに、エアロパーツや17インチタイヤ、ストラットタワーバー等が与えられた限定モデル“156 ロッソ コルセ”が登場(ボディカラーはアルファレッドのみ)する。

2002年7月

3.2ℓ V6エンジンに6段MTを組み合わせたハイパフォーマンスモデル“156 GTA”が左ハンドル仕様で登場。



また、同時に4気筒のツインスパークユニットに代わり、ユーロ4排出ガス規制をクリアしている直噴式新型エンジン搭載の“156 2.0 JTS”が誕生する。さらにシリーズ全体にフェイスリフトが行なわれ、VDC(ヴィークル・ダイナミック・コントロール)に加え、フルオートエアコンやBOSE社製サウンドシステム、レインセンサー等を標準装備し、バンパーモールとドアミラーがボディと共色になる。



2002年9月

“156 2.0 JTSセレスピード”と“156スポーツワゴン 2.0 JTS セレスピード”が追加され、スポーツワゴンにもセダン同様のフェイスリフトが施される。



2003年8月

156 GTAを除く全モデルのフロントデザイン(フロントグリルを大型化し、ヘッドライト形状なども変更)とリアデザイン(テールランプまわり)が、ジウジアーロの手により最新のアルファ・ロメオのブランドイメージに合わせてモディファイされる。



2003年11月

“156 スポーツワゴン GTA”がセレスピード(6段)と右ハンドルの組み合わせで登場。各部にセダンの156GTA同様のモディファイが施されている。



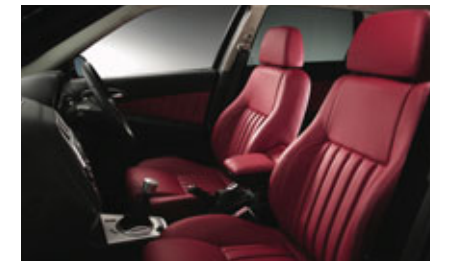
2004年1月

専用デザインの17インチホイール、キセノンヘッドライトやスポーツレザーシート、さらに専用ブレーキパッド等を組み合わせた“156 TI 2.0 JTS”“156 TI 2.0 JTS セレスピード”“156 TI 2.5 V6 24V”が設定される。また156 2.0 JTSの5段MTモデル+右ハンドル仕様を追加。



2004年7月

各種装備を充実させ、ブラックのボディカラーに赤のレザーシートを組み合わせた限定車“156 リネア ロッサ 2.0 JTS”(30台)、“同 セレスピード”(120台)、“156リネア ロッサ 2.5 V6 24V Qシステム”(50台)、“156スポーツワゴン リネア ロッサ 2.0 JTS セレスピード”(50台)、“同 2.5 V6 24V Qシステム”(50台)が登場する。



2004年11月

スポーツワゴンにセダンTIシリーズと同等の仕様となる“156スポーツワゴンTI 2.0 JTS セレスピード”“156 スポーツワゴンTI 2.5 V6 24V Qシステム”、セダンに“156 TI 2.5 V6 24V Qシステム”を設定。

2005年2月

“156 GTA セレスピード”に右ハンドルモデルを追加する。

